

富山県知事 石井隆一 殿

「県民参加による水と緑の森づくり」に関する提言

平成 17 年 10 月 14 日

とやま水と緑の森づくり検討委員会

本委員会では、森林の保全・整備のあり方と、幅広い県民の参加を得てとやまの森づくりを進める体制について検討するため、本年5月から現地検討会を含む4回の委員会を開催し、その検討結果を別添のとおり「とやま水と緑の森づくり検討委員会報告書」として取りまとめました。

そのなかで、富山県の森林を将来にわたって守り育て、県民全体で支える森づくりを進めていくために特に重要と考える点について、以下のとおり提言します。

平成17年10月14日

とやま水と緑の森づくり検討委員会

委員長 長 井 真 隆

1．森づくりの基本指針と森づくりプランの策定

本委員会の報告書で提案した、県による「森づくりの基本指針」や「森づくりプラン」について、富山県森林審議会の審議を経て策定するとともに、これに沿った「市町村森づくりプラン」の策定を促進し、全県的な森づくりの推進体制を整備されたい。

2．県民参加による森づくりの推進

本委員会の中間報告を受けて、いち早く今月、「とやまの森づくりサポートセンター」が設立されたが、今後、森林ボランティアを含め幅広い県民の意見を反映しながら、活動内容の充実を図り、より多くの県民の参加による森づくりを推進されたい。

3．森づくりを支える県民意識の醸成

森林所有者のみならず、県民全体で富山県の森を守り育てていくためには、森林の現状と公益的機能などについて、多くの県民の理解が不可欠であり、普及啓発活動が極めて重要である。このため、森林教室などの普及啓発事業を行うほか、多様な広報手段を用いて、県民への情報提供を行い、森づくりを支える県民意識の醸成に努められたい。

4 . 県民意識調査結果の評価、県民の意向に沿った施策の展開

8月に実施した「森づくりに関する県民意識調査」の結果では、災害の防止、二酸化炭素の吸収など大気の浄化、水源のかん養、野生動植物の生息の場など、森林の持つ多面的機能を重点的に守っていくべきとの回答が多かった。

また、県民参加によって森づくりを進めていくこと、自らが森づくりに参加すること、森林を守り育てるための財源を税などで県民が広く分担することについては、回答者の大多数が賛成という結果であり、森づくりに対する県民の関心が相当に高まっていることを表している。

こうした県民の意向に沿った施策を積極的に展開されたい。

5 . 森づくりの推進方策とその財源に関する具体的な検討

本委員会での検討結果を踏まえ、「とやまの森づくりサポートセンター」の具体的な活動内容や、ボランティア活動と森林所有者等との協力体制のあり方、放置人工林の針広混交林化など、県民全体で支える森づくりの推進方策と、それに必要な財源の確保方策(仕組み、用途等)について、より具体的に検討していく必要がある。

このため、県民各層の代表等からなる検討組織を早急に設置し、できるだけ早く具体案をまとめられたい。

6 . 総合的な森づくり条例制定の検討

森づくりは、長期的、継続的に取り組んでいく必要があり、県政においても将来にわたる政策の柱として位置付けることが重要である。

このため、富山県としての森づくりの理念、施策の基本方針、県や市町村の計画策定等を盛り込んだ総合的な条例の制定を提言する。この条例を契機とし、県民が大きな目標に向かって力を合わせ継続的に取り組んでいくことが実現すれば、全国のモデルとなる画期的なこととなる。

こうした総合的な森づくり条例の制定についても、上記5において提言した、県民各層の代表等からなる検討組織において検討されたい。